



門遠 13 48
2257
5

御清



繪本烈戰功記卷之五

目錄

長沼兄弟復讐之事

長沼兄弟討敵青柳國

増城源八議長沼兄弟事

信玄是非明断之圖

志村六左衛門相討之事 并 信玄批判之事

信玄智計簡嶺之城事

武田勢圖 領城圖

武田勢圖 領城圖

幸も午角の練二時と... 双方合て三十餘人追ひ捲り... 斬休長八郎の青柳源介を... 村瀬と切腹せど... 次より源本清田の友人を... ひく時平丸の同勢... あり。坊体源八の今更に級... あり。坊体源八の今更に級... あり。坊体源八の今更に級...

切伏されども... 常下長沼長介の青柳柳介... 有る。更に晴負変せぬ切つ... 柳介と交角懐激しく... の肩先切付たり... 追うけたり。青柳のいよほ... 根は毀れんとするも... 諸足丁と薙ちれば...

川内茂力巴卷二五

良

良

良

良



長沼兄弟

長沼兄弟の事切伏しく心ゆく事なり。此年月の
 時、みよの一時どきどきしる。されども長介の四ヶ知。長八郎を
 六ヶ所。矢ヶ崎の二ヶ所。石田長花の六ヶ所。飯室本花を六ヶ所。
 源子と負し。所本濱田のあま。源子法子の殺られど。源
 子の故味方の血志存する。流春の若草。色変。皆紅く。皆
 流り。増城源八の流。あれど力み。我列常。あれどせん。之
 態。子負と介抱。甲良。よりの伝定。の。いして。兼。両。虎。竟。の
 門。子。や。舎。め。綱。秋。死。り。を。て。ひ。つ。り。ま。り。せ。お。ろ。う。と。き
 よ。り。返。り。け。来。り。子。負。の。介。抱。し。て。唯。依。の。綱。秋。死。り。お
 宗。作。の。野。追。入。や。来。り。ち。ん。と。是。の。兵。士。十。三。人。筋。後。と。か。み。眼
 筋。死。り。綱。秋。の。左。右。引。添。り。甲。良。立。り。お。れ。ば。長。沼。が

淋瀝

準聞

母及門の悦びた。んよ。の。あ。く。伝。定。も。報。表。有。り。結。く。子
 負。の。疵。と。り。たり。醫。と。違。く。書。生。加。く。お。れ。ど。も。所。本。ま。入
 浅。田。太。平。の。疵。を。一。く。て。子。夜。ま。あ。り。あ。人。も。遂。に。死。り
 ち。れ。ば。一。統。是。と。情。哀。事。限。定。し。余。六。人。の。者。は。保。り。し。て
 日。と。後。後。は。疵。良。愈。り。か。や。り。烈。度。復。讎。を。あ。り。お。れ。ば。隣
 國。も。お。お。え。り。り。助。太。刀。の。者。近。大。刺。の。勇。士。う。ま。と。感。て
 止。り。於。勝負。と。行。者。共。に。雀。躍。し。て。悦。び。あ。り。武。田。太。郎。我
 信。是。と。聞。く。海。く。感。り。飯。室。坊。主。矢。ヶ。崎。石。田。の。面。々。加。増。と
 ぞ。せ。し。ま。り。信。玄。も。長。沼。兄。弟。と。召。出。さ。れ。て。太。郎。義。信。の
 車。来。り。作。符。ら。れ。り。快。小。幡。尾。張。守。伝。定。事。甲。良。と。誓
 し。有。り。天。より。武。田。家。へ。良。弼。成。り。と。い。ふ。も。ん。と。今。返。り

武田家

信之
是
明断
乃



遠ひて。傍疎原ハも。去年川中河合戦。義信ひし甲とて
篠信が度中へ切入。河上板倉。取圍す。己は必死
及びちり。とん拵て。殊の外。逃る。軍終て。後己が比良と
義さん。とて。傍疎原の古屋宗次郎事。膝痛て。逃上り。と
稱。と云。觸る。と。古屋傳聞て。是報を。け。友も。松野對變
及びちり。又源八打負て。傍好の。西。向。あ。わ。り。け。ま。が
先年。も。長沼。兄。弟。心。あ。ら。れ。事。を。云。う。け。猶。け。友。も。無。理。あ。る
中。分。城。の。條。諸。士。へ。の。ん。懸。し。あ。り。と。て。首。と。代。て。越。月。と
り。西。に。ぞ。み。け。られ。ち。ら。ん。

志村六笠仲間相討之事 元信玄批判之事

元信又武田の臣。志村金助といふ者あり。父を金と逆と云て

信虎も事て。おな武功と顯。たる者。と。其子。金助。筑前兵。於
少捕。が。他。下。に。在。て。も。さ。る。武。常。の。登。有。者。あり。曾。て。同。祖。下
代。士。六。笠。與。一。郎。とい。ふ。者。と。無。二。の。定。り。け。る。が。附。志。村。が。仲。間。を
為。太。と。い。ふ。者。同。家。の。侍。女。と。心。と。越。免。有。云。ふ。り。な。れ。ば。も
女。更。は。は。い。と。り。な。れ。い。お。な。太。い。ふ。も。志。村。に。あ。り。ん。と。て。刀。を
見。而。威。し。さ。る。所。主。の。志。村。は。告。者。あり。け。ま。い。金。助。大。に。怒。り
直。に。志。村。太。と。い。ふ。者。を。殺。す。者。辱。叱。け。ま。い。も。け。ま。志。村。太。は。世
敵。の。者。と。て。更。は。信。を。け。れ。も。さ。り。却。而。志。村。が。平。け。の。惠。ま
あ。ま。く。戲。し。る。丑。暮。と。あ。り。な。れ。た。志。村。悔。し。み。て。も。お。ま。あ。り
んと。引。居。ち。ら。ぬ。彼。大。力。の。者。と。振。致。し。外。出。し。ん。と。す
と。志。村。技。敵。切。付。ま。い。お。な。太。も。ぬ。き。合。せ。あ。ら。ぬ。引。居。ち。ら。ぬ。

此の中よき。急ぎて所内の者。残らば向海へ召し。右中間の討ま。つる。頼る。つる。修。中よき。一。願。虚。あ。五十余人。殺。中よき。上。け。志。村。取。事。十四。五。間。あ。と。う。道。あ。つ。時。六。笠。取。中。間。よ。向。ひ。と。修。つ。と。不。需。成。と。は。約。遠。り。れ。立。け。ん。隔。り。し。時。志。村。取。ま。取。逃。さ。と。勢。つ。け。られ。い。と。六。笠。取。ま。う。り。刀。と。抜。え。て。返。り。追。追。れ。ち。り。と。彼。者。ま。り。と。い。い。う。喘。息。つ。た。と。ま。り。と。六。笠。取。ま。う。り。と。二。刀。と。倚。向。し。伏。し。と。六。笠。取。ま。う。り。と。と。せ。られ。い。と。中。間。起。と。由。と。根。元。取。投。け。い。と。同。よ。志。村。取。追。討。て。頸。を。切。れ。い。と。一。同。小。中。よ。と。と。信。云。也。

掛

寄 陣

御 法

點。取。せ。し。て。諸。共。中。間。取。討。し。時。六。笠。が。仕。取。如。何。有。し。と。思。は。れ。し。と。所。人。取。て。六。笠。取。の。足。取。難。ん。と。致。し。し。時。二。三。間。志。と。中。の。又。取。り。て。後。と。志。と。り。は。る。故。中。間。の。方。を。後。ゆ。り。て。退。さ。う。と。右。所。人。取。中。間。と。後。ゆ。り。て。逃。ら。と。中。間。取。と。投。討。い。其。時。中。間。と。後。ゆ。り。て。替。り。の。と。も。得。い。と。六。笠。取。の。者。口。と。と。中。よ。と。と。信。云。又。聞。あ。げ。ら。と。と。作。出。され。い。と。六。笠。取。と。一。郎。取。と。奥。取。一。の。者。と。何。の。役。も。と。と。取。者。と。あ。り。批。判。と。召。と。守。追。取。と。と。工。小。路。の。町。人。取。の。傍。取。と。向。海。取。退。き。志。村。六。笠。の。取。人。も。館。取。と。と。下。と。と。後。信。云。取。と。と。

取 陣

川 茂 刀 已 卷 之 五

軍に
怯る

深鳩の松平俊宗守が下威腹の孫なりある由さしも大判
 の名を取し向細助之丞をけりし事もあはれなりとて家將者
 又切殺されしを惜き事あり。其時予十三女ありしが幼少
 も余り又惜く思ひし。向細が弟はしりたり。さうり
 他より如何やもあま。信玄が家より逃れ者又逃るぬ
 本と。此身よりやるぬなり。以来催すも所の事とて今と果
 し。予用よ立てられぬ人の死後追殘惜く一人はしりし
 どりし。若し。何れもあま。科人預追はくまらぬ。相
 ぬ振又十間も隔より引登り。若し。追討とまらぬ。科人
 ぶ中々に追討し。相。將墓例の中。相。信玄
 相。諸六並と一郎事。武士道。相。信玄

惜

申

長されちるの信虎公の代は向細助之丞といふ者大判の需
 士と信虎公の愛深き者なり。予家乃將者を折檻す
 して。今公の金助が如く。追うけちるが。彼將者武衛無縁
 の者として助之丞が追討ありし時を考。刀と振るる振
 り。公のひきとほいて。元も折る難。折る。向細が友
 公。頭太は只一切は落し。原。原。若盛の附り
 され。一番は折合て長女の餘と。彼將者。突。折
 ける。彼者。折る。強をたぐり。原。原。腕と
 家。れども。不。切。付。り。其。法。が。事。も。せ。ら
 寄。身。の。動。る。振。り。し。ち。り。と。多。回。候。路。立。出。り。先。は
 腕。切。り。後。は。し。め。を。刺。り。し。將。者。が。事。公。外。に。

木盤

武田勢
山嶺の城
圍む



小幡國書之



武田勢

繪本烈戰功記卷之五畢

尚火水しやうかすい又成またなく血戰ちけせんと。二の曲輪まがたまより雨あめの如ごとくは射い中ちゆう矢や先まり
 勇切ゆうせきと武田ぶたに勢せいも付つひさあふり。あつちとくえんさる
 城しろ中ちゆうよりけり川がわにて門かどが閉しり矢石やいしを飛とり。さうとせんを降くだす
 と。されども空そらあふい。さうとせん味方あつちの死し骸がはと足あし代しろとす。
 城しろ際ぎはに押おしあし押お結むす己おのれよふふんどとくえんさる。あつち。城しろ將しやう
 越こ前まへ守まも防ぼ軍ぐんの樹い盡つて。遂ついには降くだ人と成なり出でる。信しん玄げん先まと
 許ゆる容ゆる有あり。徐しゆに城しろ中ちゆうより入いり。勢せい諸しよ軍ぐんが休やすみ。れちあ。

二行アヤ

振

ち守まも。武田ぶたにの先ま陣せん飲お罵のの小山こやまが軍ぐん勢せい射いる。あつち。城しろ將しやう
 得えど尚なほ下くだ城しろ門かどと凱たいと。あつち。城しろ將しやうの勢せいは武者むしや六百むら餘あり
 暑あつち連れんは猛まう出で。勢せい先まと拏とて突つつせが飲お罵のの小山こやまが勢せい。あつち。も
 ち引ひ退ひく。城しろ將しやう庵あ原はらと九く門かどを。あつち。引ひ退ひく。城しろ將しやうの勢せいは
 方かたにあり。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。
 乃すなはち引ひ提ひて。令しやうかき。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。
 の振ふの指さしと。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。
 伏ふたれ。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。
 ち引ひ切きて。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。
 やを。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。
 城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。あつち。城しろ將しやうは。

怯

